

現地視察について

義務教育学校
春日部市立江戸川小中学校
令和2年10月12日(月)

宮代町教育委員会 : 事務局3名、指導主事1名
江戸川小中学校 : 校長、教頭2名
春日部市教育委員会 : 教育総務課主査1名、指導主事1名

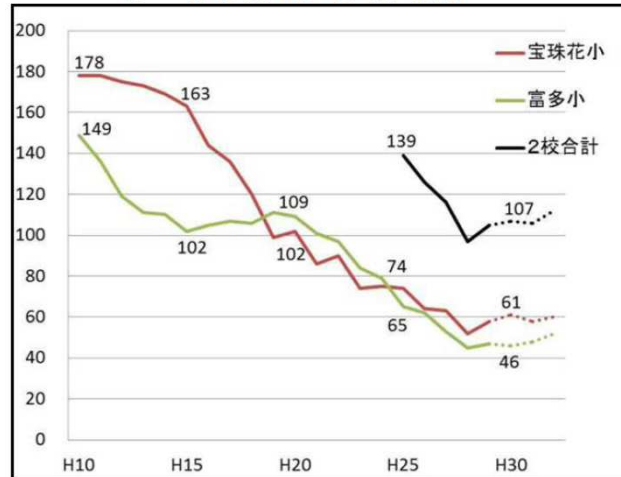
位置図



学校再編に至った経緯と背景①

- 庄和北部地域の小学校(宝珠花・富多小)の児童数が減少し、複式学校が見込まれる規模になることが予想された。
※推計については表1参照
- 児童数の減少が進むことで学校が小規模化し、児童間の交流が限定的となり、適度な刺激や切磋琢磨する機会が減る可能性が考えられる他、教員が同時に複数学年を指導することとなる不安があった。

表1：【庄和北部地域の児童数の推移】



出典…春日部市教育委員会資料 3

学校再編に至った経緯と背景②

- 平成25年9月「春日部市小中一貫教育及び学校再編に関する基本方針」の策定。
- 平成26年1月「庄和北部地域学校検討協議会」が発足。
 - 地域住民が中心となった任意の組織
 同年5月「庄和北部地域のよりよい学校教育環境に関する具申」を教育委員会に提出。
- 平成28年4月「庄和北部地域学校再編計画地域検討会」を教育委員会が設置。
 - 学校再編について、地域とともに検討。
 同年8月「庄和北部地域学校再編計画」を策定。
- 平成28年9月「庄和北部地域学校再編準備委員会」を教育委員会が設置。
 - 新校の開校に向けた地域との意見交換
- 平成30年9月「江戸川小中学校新校舎落成式典」
- 平成31年3月「宝珠花小、富多小、江戸川中」閉校
- 平成31年4月「義務教育学校 江戸川小中学校」開校

出典…春日部市教育委員会資料 4

令和2年度 児童・生徒数

	ジュニア				ミドル			ハイ		他	計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年		
学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	9
児童・生徒数	25	25	18	21	13	18	23	27	20	-	190

※他の学区から江戸川小中学校へ通学する児童生徒 33人（特認校制度18人、学校選択制14人、他1人）
 ※江戸川小中学校の学区から他の学区へ通学している児童生徒 26人

○小規模特認校制度とは？

特定の学校を「特認校」と指定し、少人数での教育の良さを生かした指導を行い、従来の通学区域を残したまま、通学区域に関係なく市内のどこからでも就学を認める制度のこと。

出典…春日部市立江戸川小中学校資料

5

児童・生徒の通学

○後期課程(7～9年)生徒 … 自転車による通学

○前期課程(1～6年)児童

- ・スクールバスによる通学(富多地区・宝珠花地区より通学する児童)
- ・保護者による送迎または公共交通機関による通学
(特認校制度、学校選択制による児童)



【スクールバスについて】

スクールバスは、2台のスクールバスが富多地区と宝珠花地区の2コースで運行しています。登校時は各コース2便、下校時は、1～6年生の日々の授業終了時刻に応じて、1～3便を運行しています。



出典…春日部市立江戸川小中学校資料

6

通学手段の詳細について

・通学手段

■児童

校区内は、原則スクールバスまたは徒歩

校区外は、保護者送迎または公共交通機関利用

スクールバス 91名、徒歩 2名、保護者送迎 27名

■生徒

校区内は、自転車または徒歩

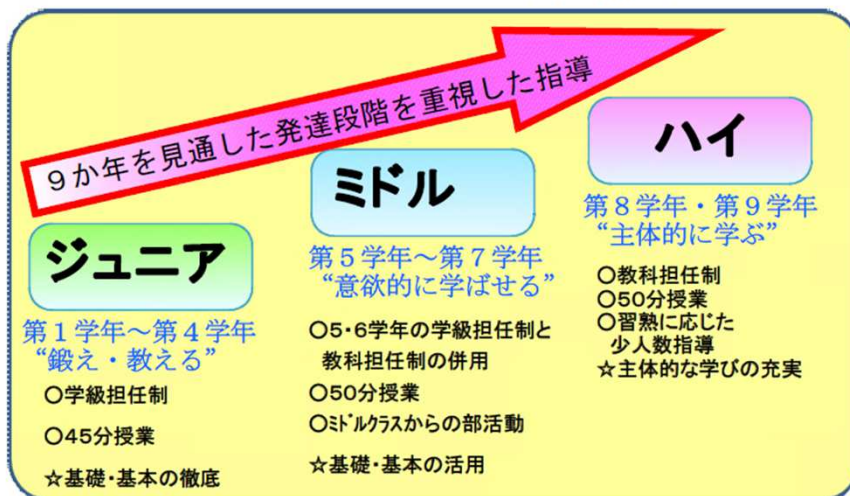
校区外は、自転車または公共交通機関利用、保護者送迎

自転車 66名、徒歩 1名、路線バス 1名、保護者送迎 2名

7

教育課程

—ジュニア・ミドル・ハイで小中一貫教育—



出典…春日部市立江戸川小中学校資料 8

5・6学年の教科担任制について

- 5・6学年の教科担任制は、後期課程（中学校）の教科担当の教員と前期課程（小学校）の教員が担当。
- 前期課程教員は中学校1種免許を取得している教科を担当。

	国語	社会	算数	理科	音楽	家庭	体育	英語
5年	○	◎	○	T-T	○	○	T-T	○
6年	◎	○	○	T-T	○	○	T-T	○

※○…教科担任 ◎…担任（中1種取得教科）
T-T…後期課程教科担任とチーム・ティーチング

出典…春日部市立江戸川小中学校資料

9

教育課程等についての意見交換

【メリットと感じている点】

- 教育課程の編成（ジュニア・ミドル・ハイ）による9カ年を見通した発達段階を重視した指導が可能である。（特に、ミドルにおける50分授業や一部教科担任制の採用など）
- ひとつの教職員組織で全学年（1～9年生）の指導を行うため、生活指導等に系統性を確保することが可能である。

【課題と感じている点】

- 義務教育学校であっても、教職員数は、通常の小中学校と同じ児童生徒数に応じて配置されたため、全教科の教員が配置されていない。（教科によっては、非常勤講師を配置している。）
- 結果として、少ない教員のやりくりで教科担当を行っているため、授業の準備等、教員の負担が増加している。

10

部活動について

- ・陸上部
- ・女子卓球部
- ・男子ソフトテニス部
- ・文化部

上記4つの部活動があり、5・6年生は希望により部活動に参加。

校長先生からは中学生になる前に体験できる機会を得ることが出来るという点では不安感が軽減されるのではと伺いました。



手前にある建物が部活棟。その奥にはテニスコートが完備されている。

11

部活動についての意見交換

【メリットと感じている点】

- ・5年生から部活動への参加が可能なので、早い時期から上級生等と関わりが持つことができる。（中1ギャップの解消に繋がる）
- ・5年生から参加することで、運動部・文化部ともに習熟度が高まることが期待できる。

【課題と感じている点】

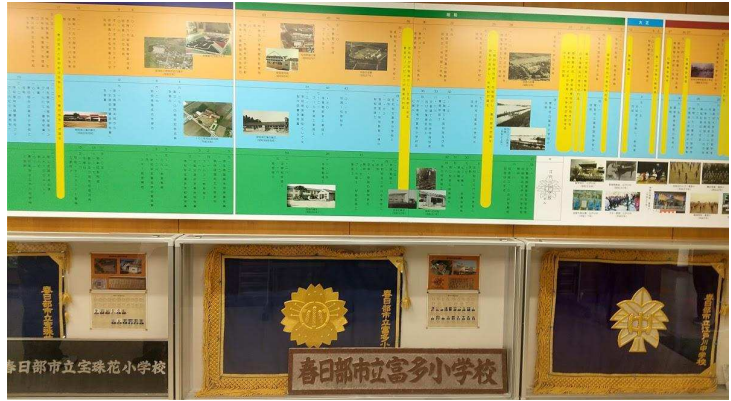
- ・新しい部活動の設置要望があっても、児童生徒数の関係や顧問の先生を配置する関係で設置が難しい。また、団体競技の運動部の設置も難しい。
- ・希望する部活動が無いため、校区外の学校へ進学する生徒もいる。希望する部活動が無いことから、クラブチームに所属し、学校の部活動へ参加しない生徒もいる。

12

学校のあゆみに関する展示

正面玄関から入り、増設されたジュニア棟に繋がる廊下脇には再編したそれぞれの学校の歩みを展示。

校長先生からは各校の歴史が見て分かるので興味深く見ていただける展示になっていると思うとのこと。



宝珠花小学校、富多小学校、江戸川中学校のそれぞれの歩みと思い出のコーナー、そして各学校の学校旗・プレート等の展示

15

ふれあいコーナー（手洗い場） と多目的トイレ

男女それぞれにお手洗いが設置されており、横には広々とした手洗い場がある。その他に多目的トイレも完備しており、オムツ替えも出来る他、全てのお手洗いは段差がなくバリアフリーな造りとなっている。

校長先生からは保護者や地域の方が利用した際にも活用いただけるとのこと。



大きな窓がある明るい手洗い場



多目的トイレ

16

中庭



芝生のある中庭

ジュニア棟前に広がる中庭には遊具があり、児童が遊べる環境が整っている。また、靴箱も校庭から教室に入る面に設置。手洗い場も同じ場所に完備しており衛生面にも配慮がなされている。

また、ミドル・ハイ棟（校長室）からもよく見えるので児童の様子が見やすい配置になっているとのこと。



ジュニア棟に設置された靴箱

図書室 (ほんのおへや)

ミドル・ハイ棟とは別にジュニア棟にも図書室を設備。せりあがった畳のスペースで本を読む環境を備えている。また、図書室内にはタブレット端末の充電をするスペースも設けており、ICT教育の機器の置き場としても活用している。



タブレット端末の充電スペース



図書室内の様子

校庭

中庭の奥には広々とした校庭が広がっており、視察の際にも6年生の体育の授業が行われていた。

中庭は主にジュニアの児童が使用するが、校庭はミドル・ハイの生徒が使用することが多い。

中庭（芝生広場）と校庭の隔たりが無く開放感のある造り。



中庭の奥に広がる校庭

19

教室

ジュニアに合わせた教室の造りとなっており、黒板の高さが児童の目線に合うようになっている。中庭に隣接しており、明るく開放的な印象。



ジュニア棟の教室の様子

20

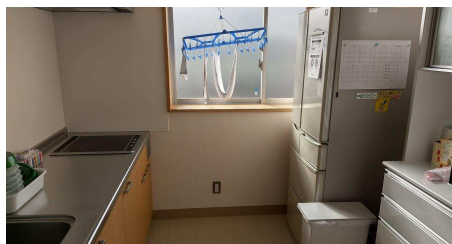
多目的に使用できる広々とした室内

ランチルーム

学童や地域開放等、多目的に使用できるランチルーム。

ジュニア棟の児童が一同に集まることが出来る広さがある。

今回のようなコロナの影響を受けて、体育館とランチルームで分散させる目的等にも活用できるとのことでした。



キッチンスペース・お手洗しも完備。地域開放にも活用できる。

21

学校運営・施設についての意見交換

【メリットと感じている点】

- ひとつの教職員組織で全学年（1～9年生）の指導を行うため、生活指導等に系統性を確保することが可能となる。
- 5～9年生までが同じフロアで学び、5年生からの部活動の参加など、日頃からの多学年交流があるため、いわゆる「中1ギャップ」と言われるハードルが低い。

【課題と感じている点】

- 各学年単学級でクラス替えができないため、人間関係が固定化しやすく、破綻した場合の修復が難しいことから、発達段階とともに人間関係の構築に配慮が必要となる。

22

現地視察のまとめ

- 義務教育学校のメリットと言われる「自由な教育課程の編成」、「中1ギャップへの対応」などは、意見交換や実際の学校施設の視察を通じて、そのメリットが活かされていると感じられた。
- 一方で、江戸川小中学校は、①全学年1クラスでクラス替えができない、②団体競技の部活動が設置できない、③教職員の負担軽減や校務の効率化には繋がっていないなど、小規模であるが故の課題は存在しているという話であった。
- 特に教職員の負担については、義務教育学校のメリットの1つとして、校務の効率化が言われているが、実際には、児童生徒の人数に応じて配置される教職員数（標準配置数）では、不足を感じており、非常勤講師を雇わざるを得ず、これまでの小学校・中学校での校務と比較しても負担は増加しているとの話であった。校長からは、これら教職員の負担増が、児童生徒の指導に影響がでないかどうかという不安はあるとの話であった。23